

# 平成29年度全国学力・学習状況調査結果(8.18通知)について

平成29年4月18日に、小学校6年生・中学校3年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の調査結果をまとめたものです。

## I 調査の趣旨

### 1. 調査の目的

- (1) 全国の義務教育の機会均等とその水準向上観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会・学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図る。
- (3) 各学校が、各児童生徒の学力・学習状況を把握し、教育指導や学習の改善等に役立てる。

### 2. 調査の内容

#### (1) 教科に関する調査

「知識」に関する問題は、①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、②実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを調査するものです。

「活用」に関する問題は、①知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、②様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに係る内容を調査するものです。

【国語A・数学A】は主として「知識」に関する問題

【国語B・数学B】は主として「活用」に関する問題

#### (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童生徒）

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

#### (3) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（学校）

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

## II 調査の結果（8.18通知）

### 1. 児童生徒の学力の状況の概要

この調査は文部科学省も注意を喚起しているように学力のすべてを表しているものではありません。

結果を比較したものが以下の表です。

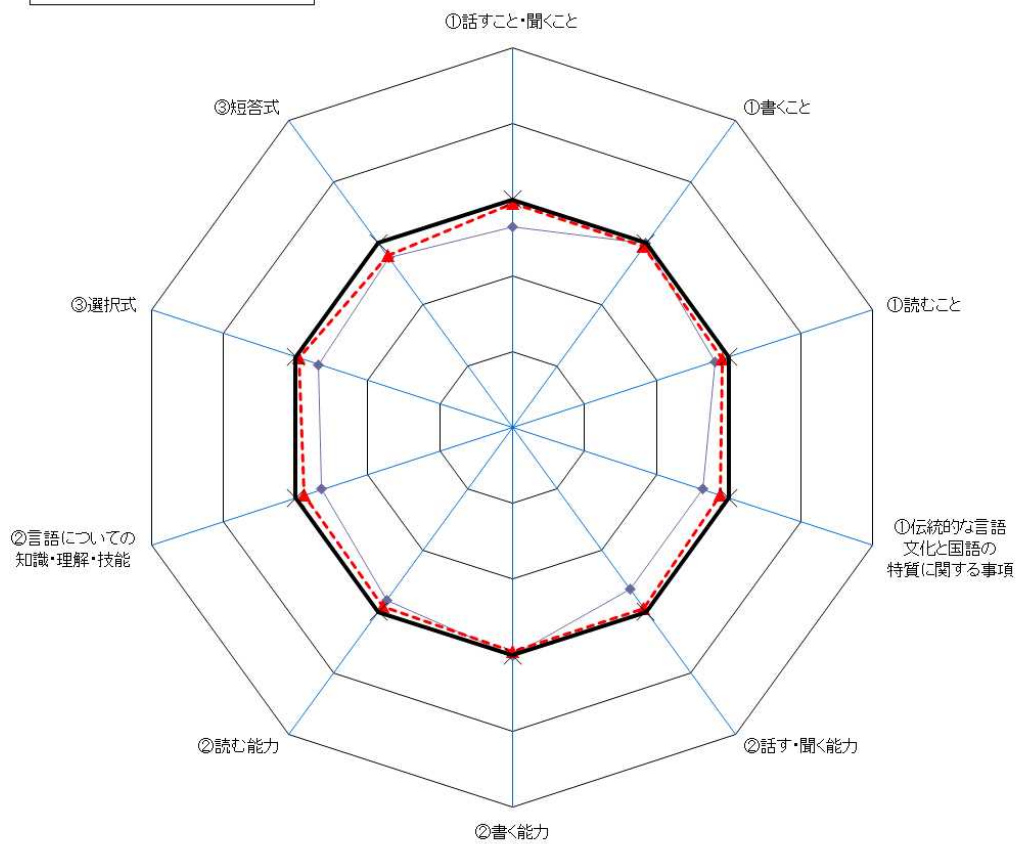
数値は平均正答率で、百分率（％）で示してあります。

今年度の結果

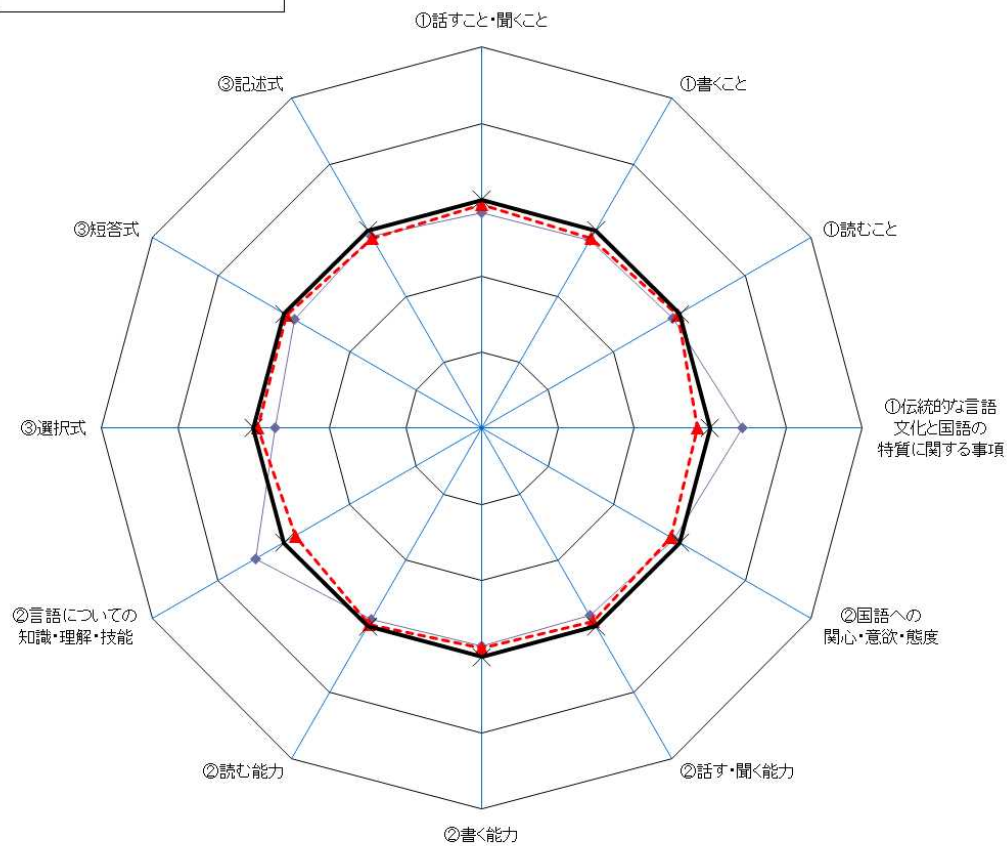
平成29年度	国語A	国語B	数学A	数学B
南町中学校	わずかに低い	わずかに低い	ほぼ同じ	ほぼ同じ
北海道（全国平均100）	77.0（99.5）	72.0（99.7）	64.0（99.1）	47.0（97.1）
全国（全国平均100）	77.4（100）	72.2（100）	64.6（100）	48.1（100）

※ 全国平均と比較したときの南町中学校の様子

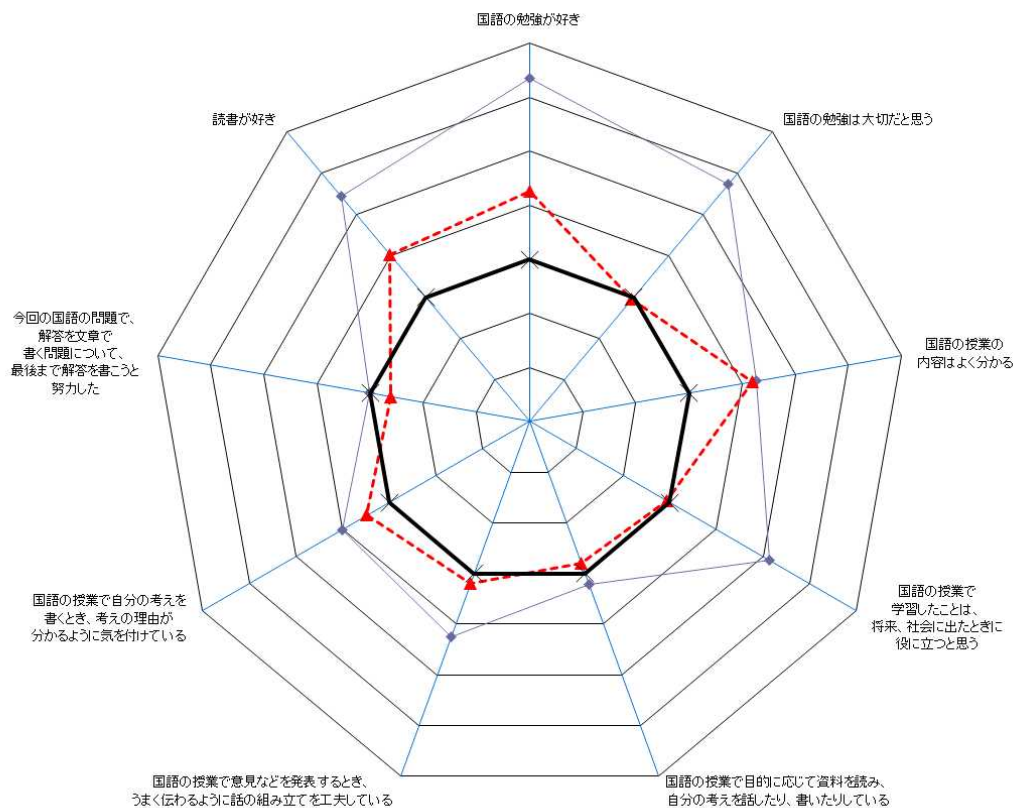
# 国語A(問題別)



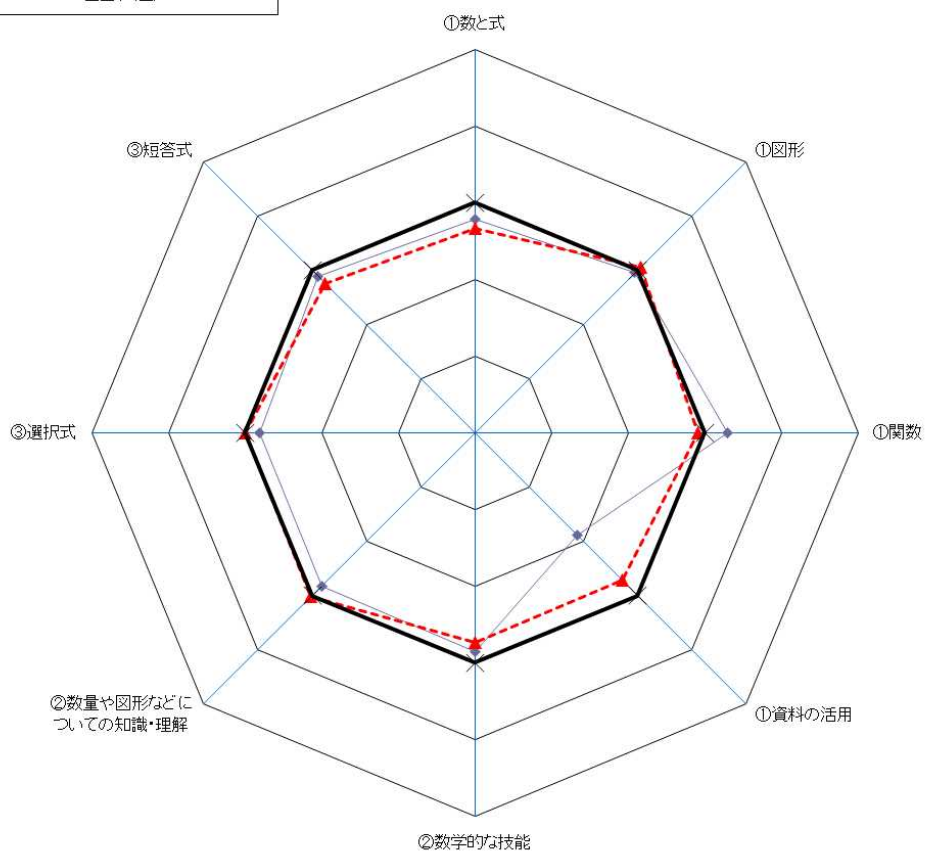
# 国語B(問題別)



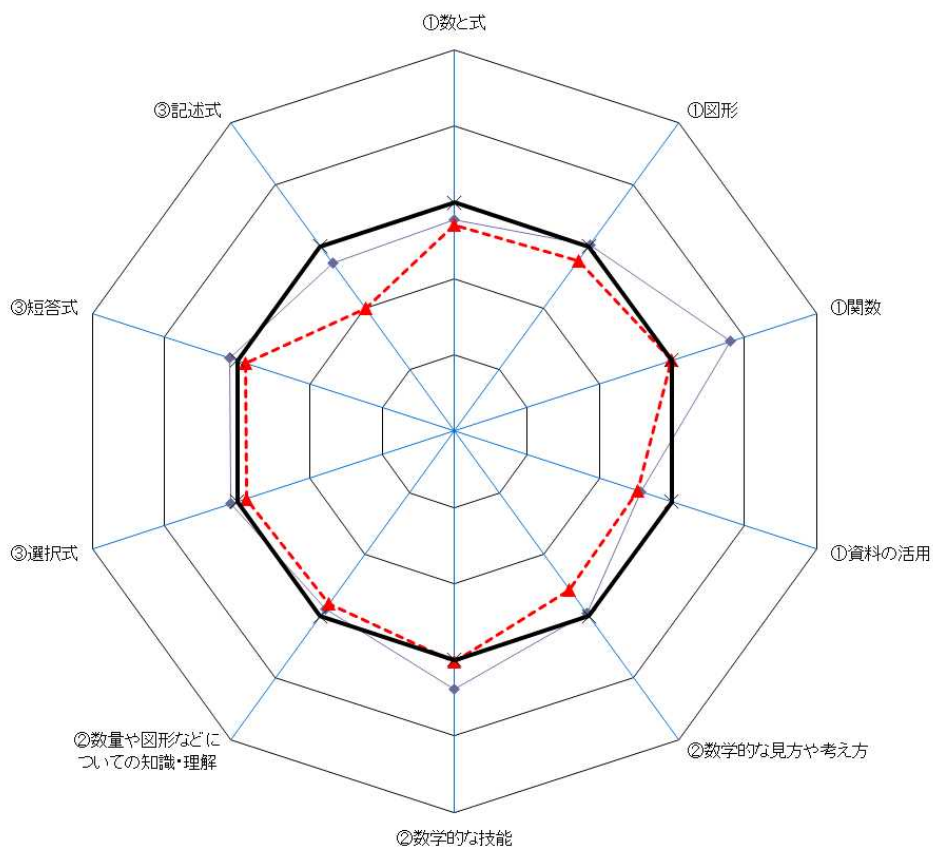
# 国語の学習(生徒質問紙)



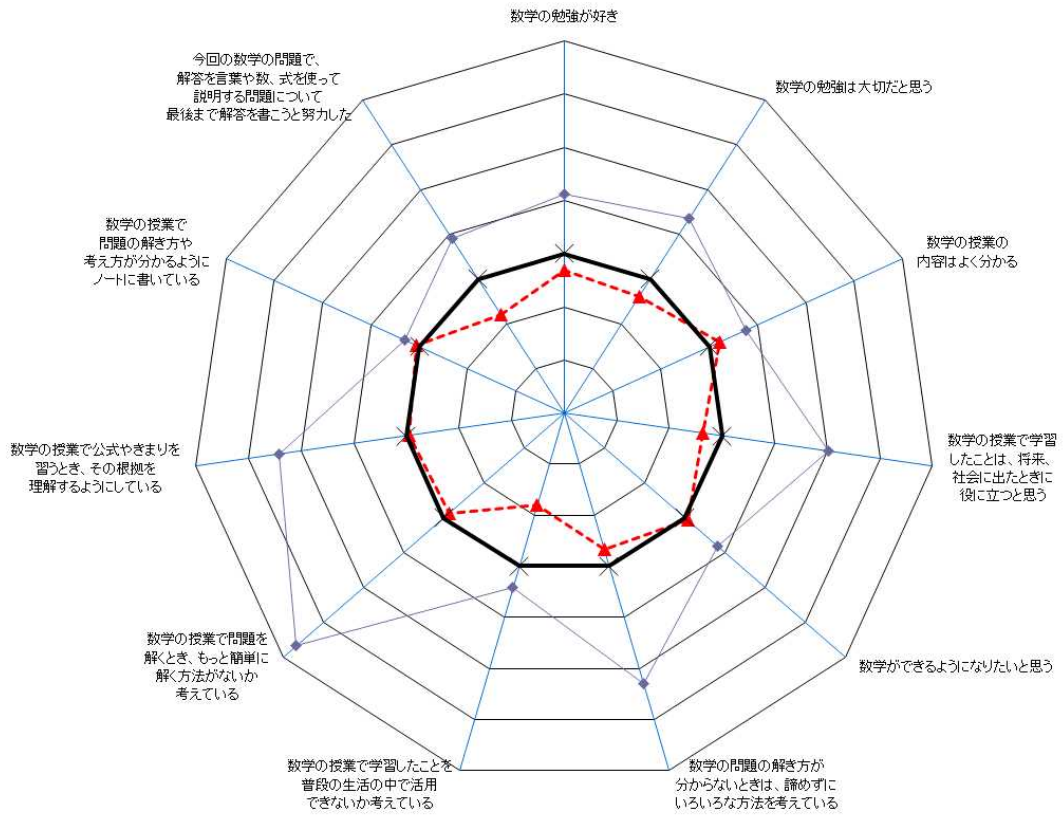
# 数学A(問題別)



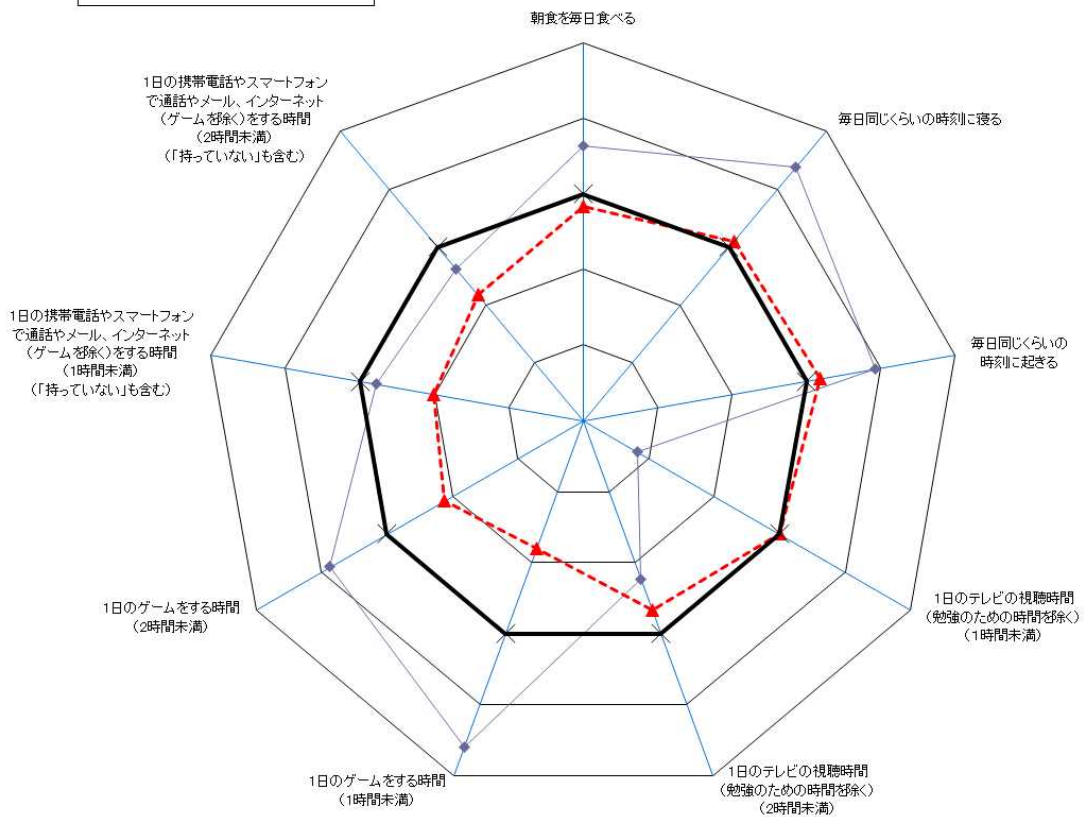
# 数学B(問題別)



# 数学の学習(生徒質問紙)

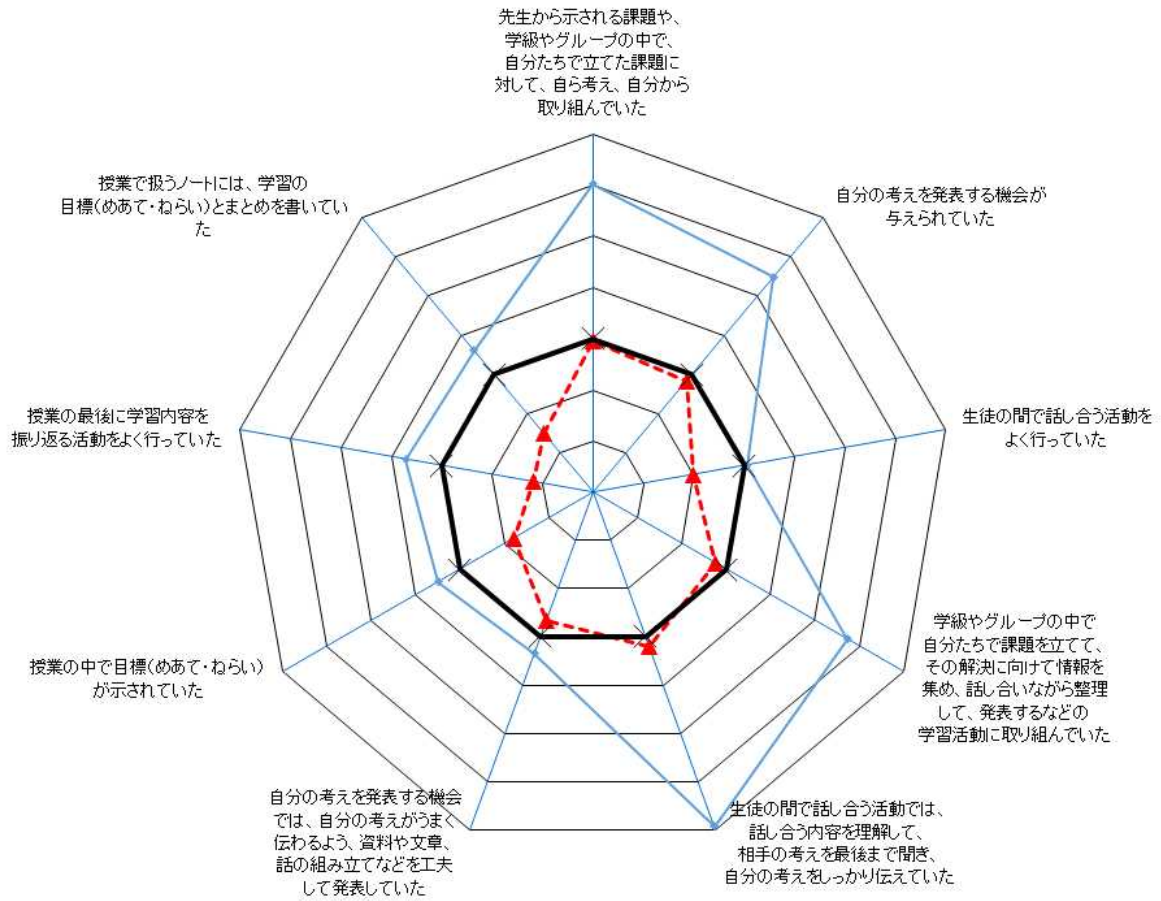
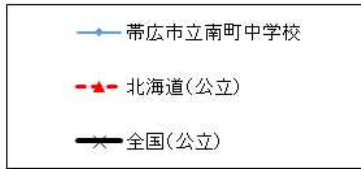


# 生活習慣(生徒質問紙)

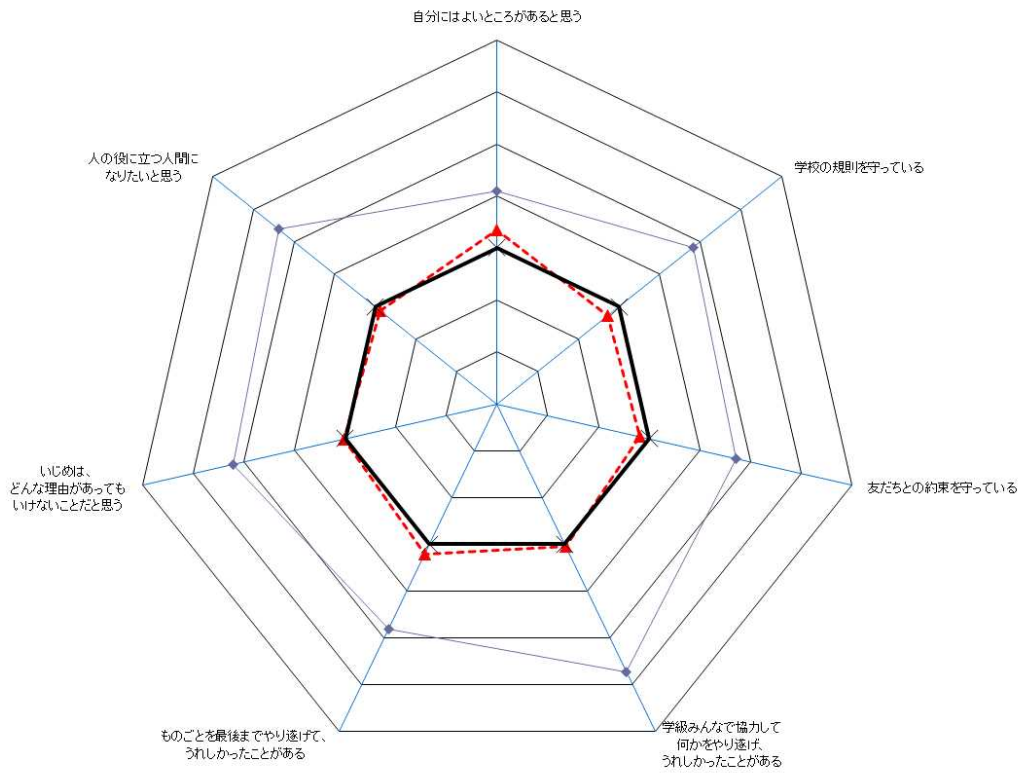
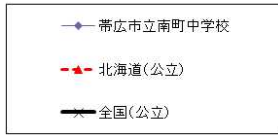




# 学習習慣(生徒質問紙)



# 自尊意識・規範意識(生徒質問紙)



### Ⅲ 調査結果の特徴

#### 1. 各教科の分析と対策

##### (1) 国語

###### ①国語A 主として「知識」に関する問題

###### 【成果】

「書くこと」の正答率が高い。「目的に応じて資料を効果的に活用して話す」こと、「文脈に即して正しく漢字を書くことができる」が高い正答率となった。基礎・基本の定着率は確実に向上しているものととらえる。

###### 【課題】

「言語についての知識・理解・技能」を問う問題で、「事象や行為などを表す多様な語句について理解する」「楷書と行書の違いを理解する」問題の正答率が低い。平均正答率が半分の生徒が全国・全道平均に比べ多い傾向がある。

###### ②国語B 主として「活用」に関する問題

###### 【成果】

「読む能力」の問題の正答率が高くなっている。また、「目的に応じて資料を効果的に活用して話す」問題の正答率が特に高い。

###### 【課題】

「比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く」事の正答率が低い。観点間のつながりをもった問題に課題があると考えられる。「聞く・話すこと」それぞれの正答率は高いもの「スピーチ内容を聞き手からの意見に基づいて直す」ことの正答率がやや低い。

###### 【国語の対策】

- ① 「文法」など基礎的な言語事項の習得のための学習活動を繰り返し行う。
- ② 文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、要旨をとらえる場面を多く取り入れる授業を設定する。
- ③ 自分の考えや立場、根拠を明確にし、わかりやすく伝える力を付けるため、また、観点を明らかにして聞く力を育てるため、話し合いの場面を多く取り入れる授業を設定する。
- ④ 習得した知識や技能を活用し、多種の情報を用いて、なじみの薄い語句や使用頻度の低い漢字などを調べ、語彙を豊富になるような学習の場を設ける。

## (2) 数 学

### ①数学A 主として「知識」に関する問題

#### 【成 果】

「計算」「図形」「関数」の分野において教科書の例題の内容の定着率が高いことがわかる。上位層の割合が全国平均より多く、基礎・基本の定着がしっかりとされている生徒が多いことが考察される。

#### 【課 題】

「図形の面積や体積」を求める問題の正答率が低い。「関数の概念」「資料の整理」の分野で低い正答率となった。

### ②数学B 主として「活用」に関する問題

#### 【成 果】

「知識・理解」の観点で「与えられたグラフや資料」から、「必要な情報を適切に読み取ることができる」の正答率が高い。

#### 【課 題】

「図形」「関数」「資料の活用」の領域について「数学的な見方や考え方」を問う記述式・短答式の問題に課題がある。

#### 【数学対策】

- ① 課題を持った家庭学習を励行し、既習事項のより確実な定着を図る。
- ② 単位時間の見通しが持てる課題を設定し、習得した知識や技能を「活用」する問題を取り入れた授業を配置する。
- ③ 既習事項をもとに、構想を立て、根拠を明確にして事柄が成り立つことを説明する場面に授業の中に設定する。(言語活動の充実、アクティブラーニングの導入)
- ④ 資料の傾向を的確に捉え、数学的な表現、考え方をを用いて判断の理由を説明する活動を充実させる。

## (4) 全体を通しての対策（取り組み）

- ① 生徒が「見通し」をもって授業にと仕組む工夫（課題設定、問題の要素・全体的な状況の観察、具体例からの推測）
- ② 学びの課程の「振り返り」の工夫（集団解決後のよさ、わかったこと、疑問点の整理、目標に正対した練習問題）

#### 【アクティブラーニングの効果的な活用に伴い】

- ③ 「個に応じた授業」の展開（習熟度別学習、発展的・補足的な学習など授業の指導方法の工夫・改善）
- ④ 「学習形態」の工夫（グループ活動、話し合いなど）
- ⑤ 「言語活動」の充実（思考力・判断力・表現力を高める）
- ⑥ 「教材」「ICTの活用」の工夫（興味関心、知的好奇心、有用感がわく）
- ⑦ 「学びの連続」の指導（家庭学習など学び方を身につけさせる）